長屋紳士録 (1947)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 72分

初公開日 1947/05/20

映倫 PG12

【解説】

小津安二郎が池田忠雄とともに書いた脚本を監督し映画化。小津にとっては戦後第一作となる作品。劇中で披露される笠智衆の「のぞきからくりの口上」は見どころ。

終戦直後の東京下町。夫と子供を失ったおたねは、一人で荒物屋を営んでいた。近所に住む占い師の田代が、見知らぬ子供を連れておたねの家を訪れる。田代は戦争孤児らしい幸平という名のその子供を、一晩だけ預かってほしいとおたねに押しつけた。幸平を家に泊めたおたねだったが、他に子供を養えそうな家もなかったため、幸平がかつて住んでいたという茅ヶ崎に連れて行くことに。しかし家も家族も見つからず、おたねは仕方なく引き続き幸平を家に住まわせることにした。

【クレジット】

監督 小津安二郎

製作 久保光三

脚本 池田忠雄
小津安二郎

撮影 厚田雄春

美術 浜田辰雄

衣裳 斎藤耐三

編集 杉原よ志

音楽 斎藤一郎

出演	飯田蝶子	おたね
	青木富廣	幸平
	小沢栄太郎	父親
	吉川満子	きく女
	河村黎吉	為吉
	三村秀子	ゆき子
	笠智衆	田代
	坂本武	喜八
	高松栄子	とめ
	長船フジヨ	しげ子
	河賀祐一	平ちゃん
	谷よしの	おかみさん
	殿山泰司	写真師
	西村青児	柏屋